

— 話 題 —

日本医科大学てんかん診療の歴史・現況・そして
未来「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング」
結成報告¹日本医科大学多摩永山病院小児科²日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科³日本医科大学付属病院神経内科⁴日本獣医生命科学大学獣医放射線学教室川上 康彦¹, 太組 一朗², 山崎 峰雄³, 長谷川大輔⁴

てんかんは昨今しばしばメディアに取り上げられ注目されている。全国紙上でてんかんの啓蒙的解説が一面全面に掲載されたり¹、日本では未認可であった新薬が近年次々承認上市されたという朗報もある²一方、運転中の発作による交通事故など悲劇的側面が強調されることが多い。

てんかんの有病率は0.5~1%と推定され実数にして約100万人であり稀少疾患ではない。一方日本てんかん学会認定「てんかん専門医」は僅かに約400名(平成24年7月現在)であるため専門医資格を有さずとも小児科・脳神経外科・神経内科・精神科の標榜医師はてんかん診療に与らないと莫大な「てんかん医療難民」が発生する。この問題を同学会は最重要課題と見做し³本年7月に厚生省研究班ベースで「てんかん診療ネットワーク」を立ち上げた⁴。日本医師会は今年の日医生涯教育セミナーで「てんかんの診断から最新の治療まで」を取り上げた。しかし医療業界内でてんかんは誤解や認識不足のため敬遠されがちであり⁵筆者は憂慮する。

翻って日本医科大学のてんかん診療の歴史と伝統は輝かしい。昭和44年恩師橋本清先生(現・名誉教授)が小児科「神経外来」でてんかん患児の診療を開始して以後43年間に本学全病院小児科で患者総数4,000人超にも上る診

療実績を誇る。この成果は平成10年橋本先生が大会長の日本小児神経学会第40回総会で会長講演「小児欠神てんかんとその周辺」に結実した。一方、脳神経外科主導で平成19年千葉北総病院に「てんかん発作時脳波ビデオモニタリングシステム」が導入され⁶、また武蔵小杉病院に平成22年4月「武蔵小杉脳波カンファレンス」が開設され月例で会合を開いている。これは診療科・部署横断的に多職種合同でてんかん診療技術向上を目指す本学初のユニークな試みである。なお武蔵小杉病院脳神経外科は国内に僅か27カ所のみ(平成24年7月現在)の「てんかん外科手術が可能な学会認定研修施設」である。学部教育では疾患各論必修講義以外に、生理学講座の選択授業で「臨床脳波学、てんかん学入門コース」が開講された。また研究面で特筆すべきはやはり生理学教室における「キンドリング」(実験てんかんモデルの作成手法)の研究で本学が世界をリードしていることである。さらに、同一法人内の日本獣医生命科学大学に、てんかんモデルマウス研究の専門家や動物のてんかん(!イヌやネコもてんかんを発症する)専門獣医師がおられ業績を挙げている。

以上の様な歴史と現況を、本学職員においてさえ周知されていない懸念があるがこれは正に前述の医療界全体でてんかんの認識度を反映する現実の一端でもある。そこで筆者らは複数の診療科に跨る学際的疾患であるてんかんに対し「武蔵小杉脳波カンファレンス」に倣い、オール日本医大の総力を結集し多職種合同で取り組む組織を立ち上げ「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング」(Nippon Medical School Epilepsy Network Meeting; NMS-ENM)と命名した。

旗揚げの「第1回総会」を6月2日水道橋・庭のホテルにおいて開催した処、学内諸般から総勢33名がご参集下さった(写真)。学外の2医学部からもご出席戴き大盛況だったことは筆者ら望外の喜びであった。学内のてんかん専門家による、教育・基礎・臨床に関わる5演題の学術講



演を行ったが、今後は臨床各部署からの症例提示、初学者向け「脳波判読解説」や学外専門家による「招待講演」などを企画している。

小児期発症てんかんは適切な薬物治療で70~80%が完治し、また薬物抵抗性でも代表的病型である側頭葉てんかんに対して外科手術治療で80~90%の発作寛解を得られる³。更に平成22年緩和療法としてのVNS(迷走神経刺激療法)が国内で実施可能になり⁷、武蔵小杉病院脳神経外科グループはVNSが保険収載されて以降、東京大学、近畿大学に次いで国内第3番目に実施した施設となった。

この様にてんかんは不治の病ではない。この集会が本学てんかん診療の一層の向上に必ず寄与するであろうことを紙面を借りてお誓い申し上げるとともに、法人各位の御理解御支援を賜れるよう心からお願いしたい。現在付属4病院各部署で個別に行われている本学にてんかん診療が本集会の活動により組織的連携を深め、将来「日本医科大学てんかんセンター」の設立にまで発展してゆくことが筆者らの密かな願いである。

文 献

1. 朝日新聞 2012.7.15 付広告特集「よりよいてんかん診療のために~座談会・わが国における現状と課題~」。
2. 朝日新聞 2011.1.13 付医療面。
3. 日本てんかん学会ホームページ (<http://square.umin.ac.jp/jes/>)
4. てんかん診療ネットワークホームページ (<http://www.ecn-japan.com/>)
5. 川上康彦, 藤野 修: 小児におけるけいれんと間違えやすい病態の鑑別. 小児科 2011; 52: 1177-1183, 金原出版 東京.
6. 太組一朗, 小泉慎也, 小林士郎, 藤野 修: てんかん診療における長時間デジタル脳波ビデオモニタリングシステムの導入. 日医大医学会誌 2008; 4: 50-51.
7. 太組一朗: 各科臨床のトピックス 難治性てんかんに対する迷走神経刺激療法. 日医雑誌 2012; 140: 2574-2576.

(受付: 2012年7月31日)

(受理: 2012年9月11日)